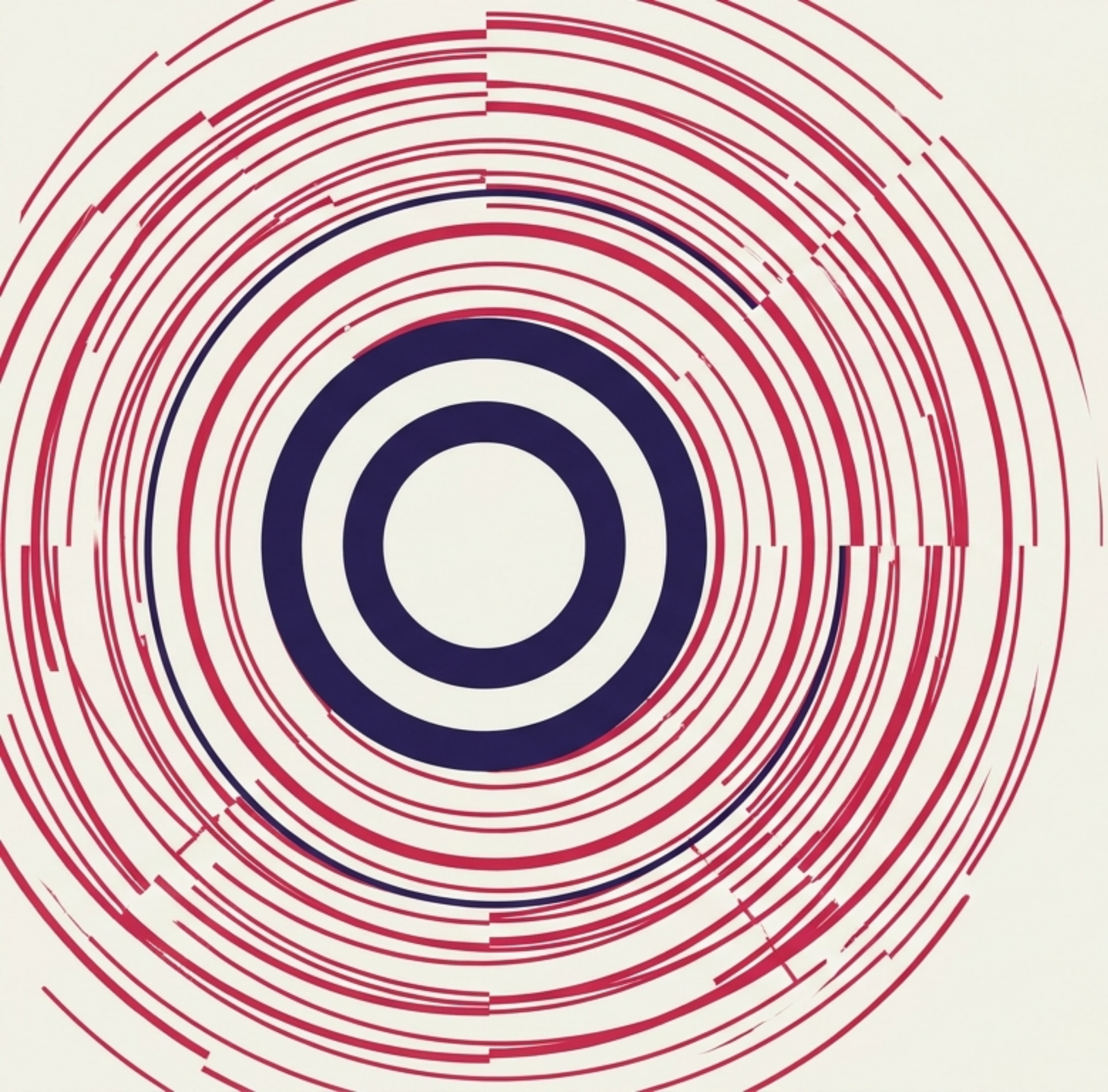
一つの長所ですべてを許していないか？

人物評価における「盲点」と
真の成長の条件

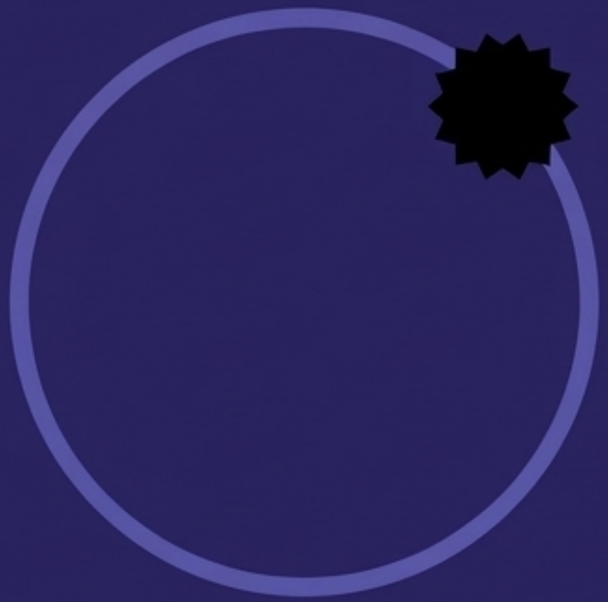
Gemini Notebook



相手の実態を見見ているか。それとも、自分が見たい一面だけを見ているか。

人を評価するときに必要なのは、
最高の瞬間でも、最悪の瞬間でもなく、
その人の「実態」を見ることだ。

Gemini Notebook



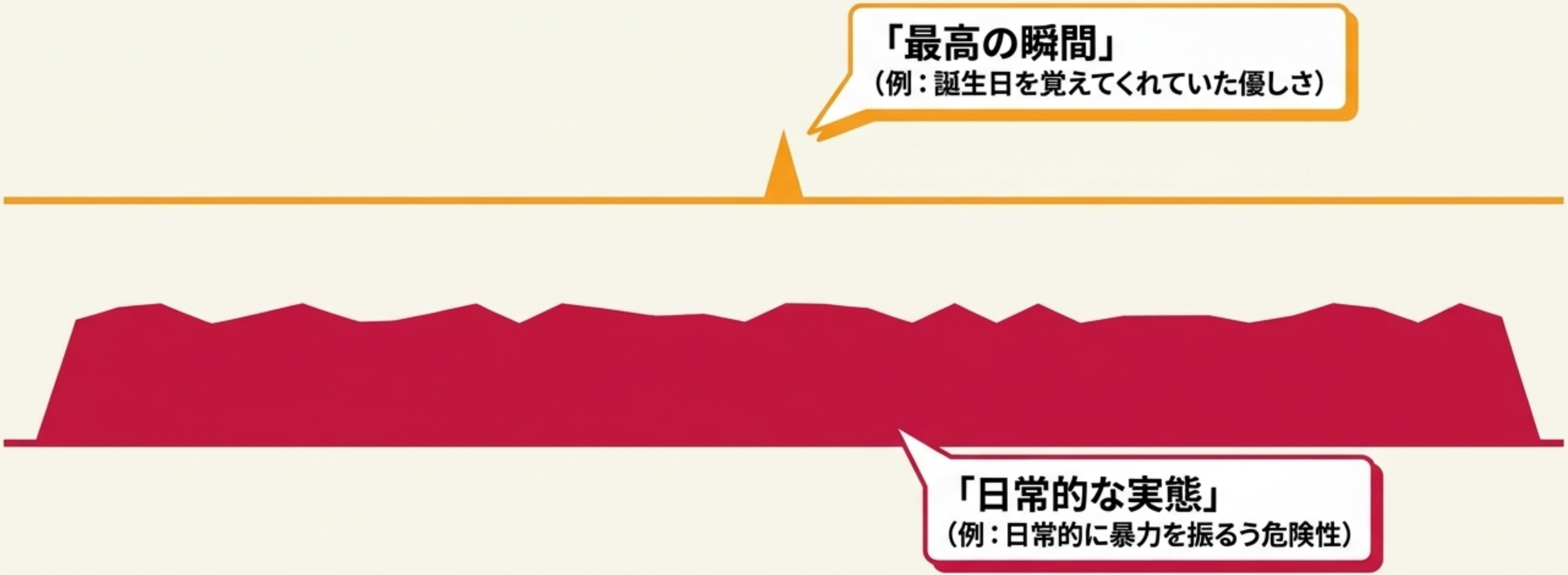
【否定の罠】
一つの欠点で、すべての長所を否定する人。
（例：魅力的な女性だが、男性関係にだらしないという一点だけで嫌いになる）



【許容の罠】
一つの長所で、すべての欠点を許してしまう人。
（例：問題の多い男性だが、誕生日を覚えていたという一点だけで別れられない）

どちらも、相手を正しく評価できているとは限らない。

Gemini Notebook



大切なのは、長所と短所の「数」ではなく、
その「中身」と「重大性」である。

Gemini Notebook



1. 現実への直面：
不都合な事実（暴力、裏切り、無責任）に遭遇する。



2. 自己防衛：
自分が信じたいものを守ろうとする心理が働く。



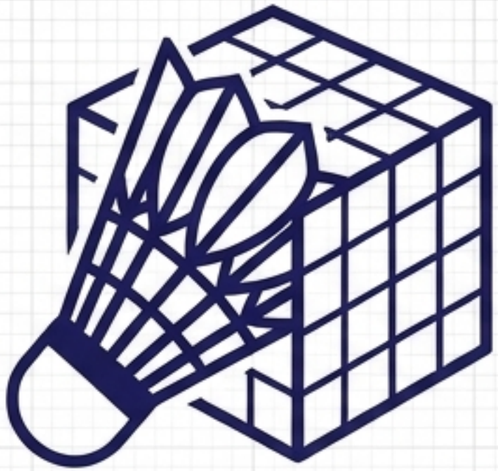
3. 事実の選別：
都合のいい事実（優しい一面）だけを採用し、都合の悪い事実を無視する。



4. 幻影への盲信：
相手ではなく、自分が作り上げた「相手のイメージ」を信じ込む。

「人間は、自分が信じたいものを守るために、現実を見なくなることがある。」

Gemini Notebook



この「幻影」は、人間関係だけを破壊するのではない。
私たちの「成長」をも妨げる。

スポーツや指導の現場（バドミントン）においても、全く同じ心理メカニズムが働いている。

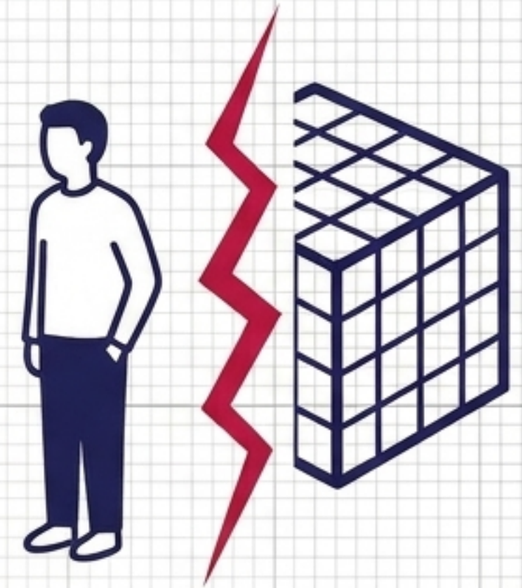
Gemini Notebook

【盲信の罠】



一度だけ素晴らしいアドバイスをくれた
指導者を、すべてにおいて盲信する。

【拒絶の罠】

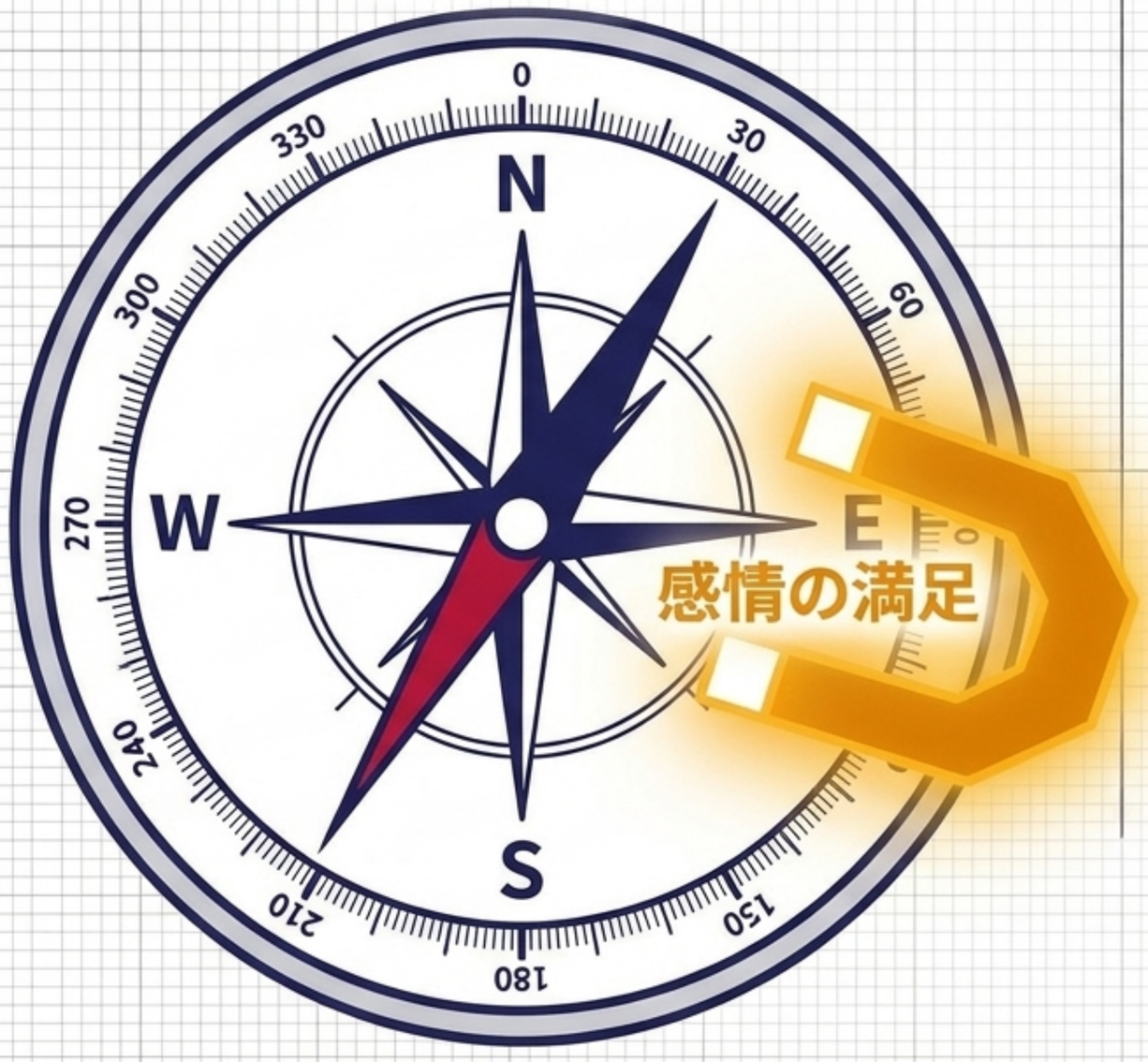


一度だけ厳しいことを言われた指導者を、
その一点だけで嫌いになる。

自分の価値観に縛られ、指導者の「実態」を見失っていないか。

Gemini Notebook

真の成長



評価基準のすり替え

その判断基準は、

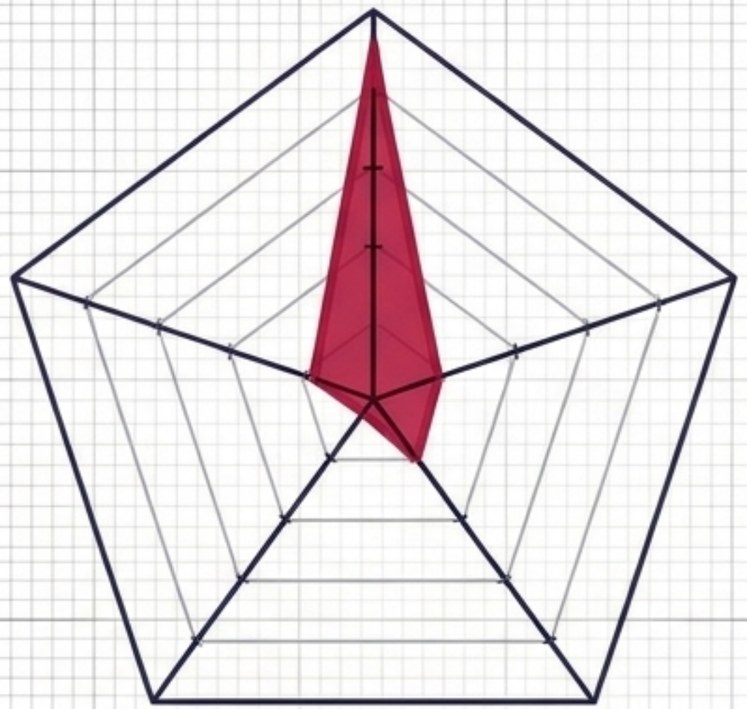
✕ 自分の成長に役立つかどうか

○ 自分の感情を満足させてくれたかどうか

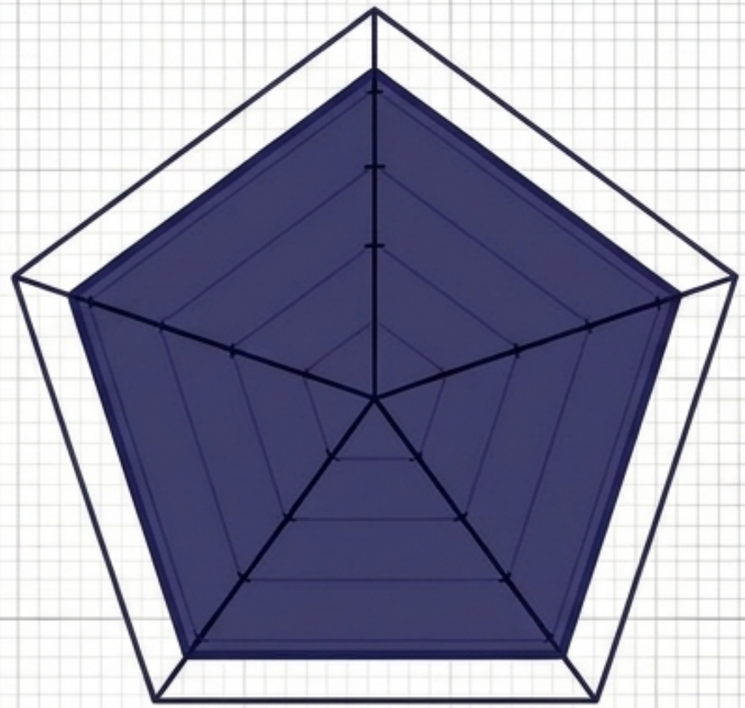
になっていないだろうか？

本当に大切なのは、自分にとって
「心地よい一面」を探すことではない。

Gemini Notebook



感情的な一面の評価



実態の多角的な観察

1. 日常的行動

相手が日常的に
何をしているのか？

2. 周囲への影響

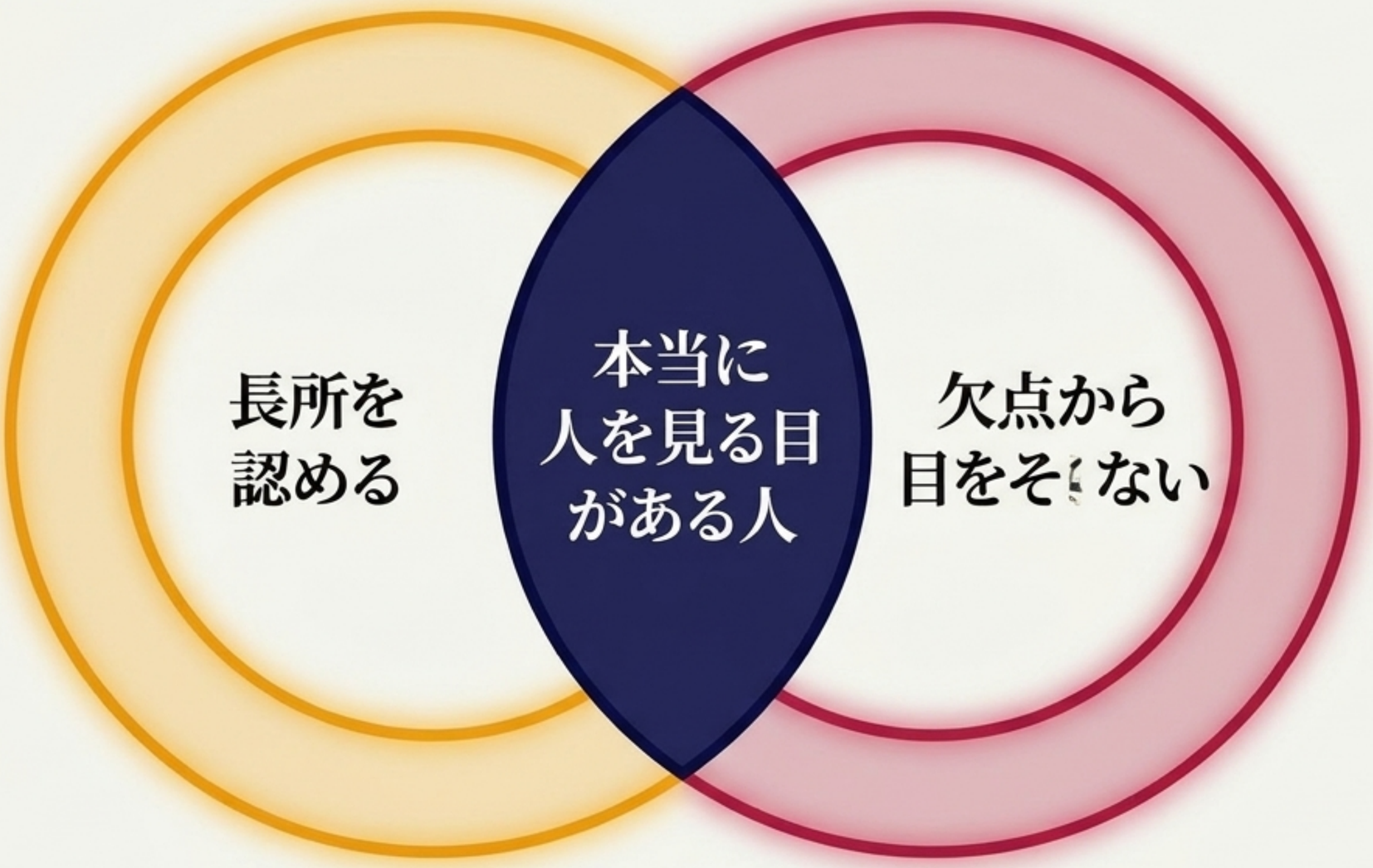
その行動が、自分や周囲に
何をもたらしているのか？

3. 自身の盲点

自分は今、あえて
何を見落としているのか？

そこまで見ようとする姿勢が、評価の解像度を上げる。

Gemini Notebook



欠点を探すのが上手い人でも、長所を探すのが上手い人でもない。
両方を同時に見据えることができる人だ。

Gemini Notebook

「あの人にもいいところがある」

≠

「自分の人生を預ける価値がある」

いいところがあることと、関係を続ける理由は別問題である。

Gemini Notebook

この違いを見抜けるかどうか。
そこに、人生の大きな分岐点がある。

Source: 格言「一つの長所ですべてを許していないか？」
PHOENIX愛知 バドミントン教室

Gemini Notebook